

日本中世の 地域社会と仏教

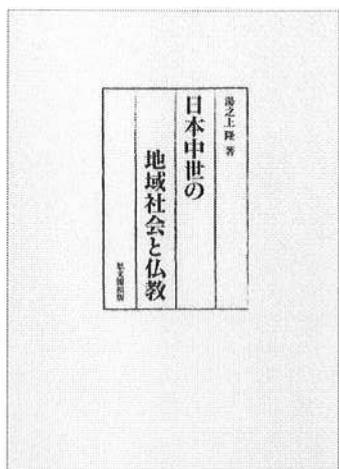
湯之上隆著

【一〇月刊行】

写経や法会、開板事業、偽文書など様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか、中世の地域社会における、仏教と社会との関係性を明らかにする。

静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会など、「宗教」と「地域社会」をキーワードとして古代から近代までの社会を概観する論集。

余篇として、幕末維新期、最後の世代の国学者小杉楹邨の活動についての論文を掲載。



▼A5判・三八四頁／本体八、〇〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1773-1

目次

第一篇 地域社会と経典

第1章 平安時代の写経と法会——五部大乘経をめぐる——
五部大乘経成立の歴史的前提／五部大乘経と法勝寺大乘会／五部大乘経と貴族社会

第2章 鎌倉期駿河府中の宗教世界
——駿河国有度八幡神社旧蔵五部大乘経をめぐる——
八幡神社旧蔵五部大乘経の復元／八幡神社旧蔵五部大乘経成立の概要／八幡神社旧蔵五部大乘経成立の背景

補論1 駿河国有度八幡神社旧蔵第般若経

第3章 遠江国洞泉寺所蔵五部大乘経の成立と伝来
形状／成立／伝来

第4章 美濃国薬王寺所蔵大般若経の開板と伝来
形状と構成／開板の経緯と願主たち／伝来と活用

補論2 伊豆国国柱命神社所蔵大般若経

補論3 駿河国清見寺所蔵大般若経

第二篇 地域社会と寺社

第5章 覚海円成と伊豆国円成寺——鎌倉禅と女性をめぐる——
覚海円成の周辺／覚海円成という女性／円成寺の開創と展開

第6章 中世仏教と地方社会——六十六部聖を手がかりとして——
源頼朝の前世／六十六部聖と「六十六」という数字／六十六部聖の世紀

第7章 遠江国山名郡木原権現由来記の歴史的環境
「由来記」と木原家所蔵文書／木原権現と神官木原氏／熊野三山と遠江国／「由来記」の内容

第8章 中世後期の秋葉山と徳川家康
秋葉寺別当光播と徳川家康／武士の秋葉信仰／秋葉寺と可睡齋

補論4 駿河国東泉院と建穂寺——一通の高札写から——
補論5 喜捨する人びと——駿河国心岳寺祠堂帳——

第三篇 地域社会の記憶

第9章 遠江久野氏の成立とその歴史的環境
遠江久野氏の初見史料／久野から久野へ／久野氏初代宗仲／久野氏と原氏

第10章 旅日記・紀行文と地方社会
鄙の長路／京へ田舎へ／東往西遊

第11章 名物瀬戸の染飯をめぐる文化史
瀬戸の染飯の起源／近世紀行文にみえる瀬戸の染飯／狂歌に詠まれた瀬戸の染飯／描かれた瀬戸の染飯

第12章 近世後期神社祭祀をめぐる争論と偽文書
——一通の「將軍足利義晴判物」／新出の今川義元判物／二通の「將軍義晴判物」

余 篇

小杉楹邨の幕末・維新——近代化のなかの国学——

阿波在任在任期の学問的環境／教部省入省／帝国博物館出仕以後

補説 東京大学文学部附属古典講習科

ゆのうえ・たかし…1949年鹿児島市生まれ。九州大学大学院文学研究科史学専攻博士課程中途退学。博士（文学、九州大学）。現在、静岡大学人文社会科学部教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本中世の地域社会と仏教		本体8,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1773-1
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

中世寺院社会と民衆 衆徒と馬借・神人・河原者

下坂守著

山門の嗽訴の検討から、山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを明らかにしたうえで、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在り地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じ、さらには、中世都市京都の変容についても、絵画史料を駆使して明らかにする。

▶A5判・430頁／本体7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1779-3

日本中世の社会と寺社

細川涼一著

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民など、歴史の主流からこぼれ落ちがちなものたちへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。

▶A5判・452頁／本体7,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1670-3

怨霊・怪異・伊勢神宮

山田雄司著

古代・中世社会で大きな意味をもち、社会の底流で歴史を動かしてきた怨霊・怪異。早良親王・菅原道真・崇徳院などの怨霊や、様々な記録・伝承される怪異など、その諸相を歴史的に跡づける。さらには親鸞や伊勢神宮といった、神と仏をめぐる領域をも射程に入れて集大成する。

▶A5判・448頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1747-2

撰関院政期思想史研究

森新之介著

撰関院政期における民衆仏教史観の研究史を整理し、当該期の思想家たちや事象の考察および実証研究を深めることにより、通説としての民衆仏教史観と切り結び、その実像を鋭く描き出す。日本の思想上、極めて重要な時期の一つとされる撰関院政期の思想史叙述に修正を迫る一書。

▶A5判・352頁／本体6,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1665-9

関山慧玄と初期妙心寺

加藤正俊著

世縁の粘着を嫌い隠逸の生涯を送った妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくみ、宗門の密室性に分け入った一書。

▶A5判・390頁／本体6,500円(税別)

ISBN4-7842-1281-7

※戦国期関東公方の研究

阿部能久著

思文閣史学叢書

関東公方の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鑿阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

▶A5判・320頁／本体5,700円(税別)

ISBN4-7842-1285-X

※戦国大名武田氏の権力構造

丸島和洋著

国大名はどのような伝達ルートを通じて家中の内外との意思の疎通を行ったのか？本書は甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討とあわせて、大名権力の中枢を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つけ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする。

▶A5判・436頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1553-9

※増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究

森茂暁著

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあげて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文献出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

▶A5判・612頁／本体9,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1416-7

室町期東国社会と寺社造営

小森正明著

思文閣史学叢書

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動―寺社領経済―の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

▶A5判・356頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1421-1

※日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道などと地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁／本体7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1572-0

法然上人絵伝の研究

中井真孝著

著者のライフワークである法然上人絵伝の研究を集大成した学界待望の論文集。知恩院本『法然上人行状絵図』の成立、絵伝諸本の個別研究をはじめ、専修念仏に先立つ百万遍念仏の歴史的展開を考察した2論文、古代仏教に関する論考4編を含む、合計19編からなる。今後の法然上人伝記研究を進める上での基本文献として貴重な一冊である。

▶A5判・478頁／本体9,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1694-9

室町水墨画と五山文学

城市真理子著

室町時代中期の画僧である岳翁と東福寺僧了庵桂悟の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫ることを試みる。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様水墨画について考察。

▶A5判・336頁／本体6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1607-9

室町幕府の東国政策

杉山一弥著

室町幕府の東国政策という視点から室町期東国社会をとらえ直し、その焦点を平時・戦時それぞれの東国の儀礼と秩序、東国における足利氏一族庶子の存在意義、室町幕府・鎌倉府の境界領域ならびに政治・経済的に競合する地域社会における諸階層の動向にあわせて再検討する。

▶A5判・388頁／本体7,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1739-7

中世の契約社会と文書

村石正行著

従来、中世の契約慣習のなかで債権者から渡され債務者の側に残る文書についての研究は等閑視されてきた。本書は売買・貸借などの契約関係を題材に、それに関わる契約者双方の文書作成のあり方を検証、「塵芥集」における法慣習なども援用しながら、双方向の文書授受とそれにまつわる文書作成が一般的におこなわれていた可能性を示す。

▶A5判・352頁／本体7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1668-0

室町幕府管領施行システムの研究

亀田俊和著

応仁・文明の大乱以前の室町幕府における根幹の制度であり、將軍の主従制的支配権を強化・促進し、全国の武士・寺社本所に権益を与えることによって政権基盤の強化に大きな貢献を果たしたと評価できる管領施行システムの沿革と意義を分析・解明する。

▶A5判・544頁／本体9,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1675-8

中世日本の政治と文化

森茂暁著

思文閣史学叢書

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、『博多日記』という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明らかにした論考15篇を収録。

▶A5判・480頁／本体9,000円(税別)

ISBN4-7842-1324-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。